

第1学年3組 国語科学習指導案

第1校時 場所 体育館 指導者 溝上 剛道

1 単元名 『あんた、きいとくれ!』～もしも、おかみさんがきこりにはなすとしたら～「たぬきの糸車」

子どもたちは2学期の「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の学習で、中心人物の思いを読み解く課題を立ち上げ、対話を通して根拠や理由付けを確かめながら自分の読みを創り上げることができた。ただ、学級で設定した課題について全体での話し合いを中心に学習を展開したため、一人一人の読みの疑問を十分に生かすことはできなかった。

子ども自身が「深い学び」を生み出していくためには、一人一人が身につけるべき力を意識して自分事の課題を見出し、友達や作品と対話しながら課題を解決していくプロセスが不可欠である。そのような学びの中で、自他の読みを比較し、言葉と言葉を関連付けながら、自分の読みを見つめ直すことができるようになってほしいと願う。

本単元では「たぬきの糸車」を教材文として取り上げ、「おかみさんになりきって、きこりに『あんた、きいとくれ!』とお話する」という言語活動を設定する。「もしも、おかみさんがきこりに話すとしたら」という状況設定をし、「たぬきの行動を見てどう思ったか」という指導事項を明示した学習課題を提示することで、一人一人が身に付けるべき力を意識した課題を見出し、言葉による見方・考え方を働かせながら、課題解決のプロセスをたどっていきけるようにしたい。

2 単元について

- (1) 本単元では、「たぬきの糸車」を教材文として取り上げる。場面の様子や登場人物の行動に着目し、想像を広げながら読む力の育成をねらいとする。

本教材は、好奇心旺盛なたぬきの姿とそれを見たおかみさんの行動や気持ちを中心に、二人の心の交流が描かれた物語である。擬声語や擬態語が多く用いられ、登場人物の行動や気持ち、物の様子が分かりやすく描かれている。それらの叙述に着目していくことで、場面の様子や登場人物の行動について具体的に想像を広げて読むことができるであろう。特徴的なのは、長い冬の間のたぬきの行動や、春になって糸車を回しているたぬきを見たおかみさんの気持ちについては、作品中一切描かれていないことである。そうした、いわゆる“物語の空所”に着目し、場面の様子や登場人物の行動、気持ちについて検討していくことで、想像を広げながら読む楽しさを味わわせていきたい。

- (2) 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を教材として取り上げた前単元では、会話や行動に着目して、中心人物の思いを想像する学習に取り組んだ。本単元でも、登場人物の会話や行動に着目するとともに、人物の目線から描かれた周囲の様子を表す言葉にも着目して想像を広げる学習を展開する。その学習が、次の「だってだってのおばあさん」で、登場人物の行動を中心に場面の様子に着目し、物語の好きなところを探して読む学習へとつながっていく。

- (3) 本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数：35人)

- ① 語のまとまりや主述の関係に気を付けて読むのにやや時間を要する子どもが2人いる。
② 場面の様子と結び付けて、登場人物が何をどのようにしたのか、どうしてしたのかななどを具体的に想像することにやや難しさを感じる子どもが9人いる。

- (4) 指導にあたっての留意点は、次の通りである。

- ① 第一次では、単元の課題「おかみさんが、たぬきのしたことを見て『どうおもったか』について、ばめんのようすやじんぶつのごうどうとつなげて、『あんた、きいとくれ!』ときこりにおはなししよう」を提示し、単元の見通しをもたせる。それを基に、身に付けるべき力と照らし合わせながら、一人一人に解決したい課題を考えさせていく。

- ② 第二次では、グループを中心に、おかみさんがきこりにどんなことを話すかを想像させていく。2～4場面（「ある月のきれいなばん～」「それからというもの～」「あるばん～」）は、一人一場面ずつ担当させ、全員に表現の場を確保する。また、多くの子どもが読みの疑問をもつであろう6場面（「はるになって～」）についてはグループ全員で考えさせる。その際、「もしおかみさんが、たぬきが～したのを見た後に、きこりに話すとしたら」という状況設定をすることで、たぬきの行動と、それを見たおかみさんがどう思ったかに着目させていく。さらに、「どう思ったか」を伝えるにはどんな言葉がぴったりかを検討させることで、自分が表現した言葉を叙述と結び付けながら問い直し、考えを広げ深めていけるようにする。
- ③ 本時の学習では、6場面後半におかみさんの行動や気持ちについての叙述がないことを取り上げ、学級全体の本時の課題を「おかみさんは、糸車をまわしているたぬきを見て、どう思ったのだろう。」に焦点化する。課題について話し合う中で、「～を見たということは、きつと～」のように場面の様子や登場人物の行動と関連付けながらおかみさんがどう思ったかを想像している考えを交流させる。そのような話し合いの中で、どの叙述をどのように関連付けることで「おかみさんがどう思ったか」を想像できるかを検討していく。
- ④ 第三次では、『あんた、きいとくれ！』発表会を行う。発表グループは、おかみさん役、きこり役、「たいせつ」役の三役を分担させる。特に、身に付けるべき力をどこで使うことができたか振り返ることができるよう、「たいせつ」役は、おかみさん役の言葉に合わせて着目した場面の様子や登場人物の行動についての叙述を全文プリントで示すようにする。

3 単元の目標

- (1) 場面の様子や登場人物の行動に着目し、それらの叙述を関連付けながら、想像を広げて読むことができる。
- (2) 主語と述語の関係に気を付けて読むことができる。

4 指導計画（8時間取り扱い）

| 学習活動 | 文脈的なプロセスをたどるための教師の支援 | 時間 |
|---------------------------------------|--|-------------------|
| 1 単元の見通しをもち、自分の解決したい課題を見つける。 | ○ 言語活動の提案とともに、身に付けるべき力を明示した単元の学習課題を提示し、子どもが見通しをもって学習を進められるようにする。 | 2 |
| おかみさんになりきって、『あんた、きいとくれ！』ときこりにおはなししよう。 | | |
| 2 『あんた、きいとくれ！』の続きの言葉を考える。 | ○ 分担した場面は、各自が考えたおかみさんの言葉を紹介し合いながら、前後の場面とのつながりを検討させる。 ○ 作品中、おかみさんの気持ちが直接的に描かれていない場面についての悩みや読みのずれを取り上げ、全体で検討する場を設ける。 ○ 国語日記では、第一次で立てた自分の課題が解決したか、どの叙述とどの叙述をつなげて考えると解決できたか、あるいはどこに疑問が残ったかを振り返らせる。 | 5 本時 4 5 |
| 3 おかみさんの言葉を紹介し合い、感想を交流する。 | ○ 身に付けるべき力を意識した交流となるように、発表グループの中に「たいせつ」役を設け、身に付けるべき力をどこで使ったかを聞き手に分かるように示させる。 | 1 |

5 本時の学習

(1) 目標

おかみさんが糸車を回すたぬきを見たことを、きこりにどう話すか検討することを通して、場面の様子や人物の行動に着目し、おかみさんがどう思ったかを想像することができる。

(2) 展開

| 時間 | 学習活動 | 子どもの思い・姿 |
|----|---|---|
| 10 | 1 本時の課題をつかみ、教師の範読を聞く。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 春の場面のはじめは、「ふしぎ」「びっくり」のように、おかみさんがどう思ったかが書かれていたね。だけど、糸車を回しているたぬきを見た後は、何もは書かれていなくて、グループで意見が分かれてしまったよ。 ○ どの場面の様子や登場人物の行動と結び付けるとわかるだろう。 |
| 30 | 2 おかみさんが、きこりに話すとしたら、何と言ったかを想像する。 (1) グループで話し合う。 (2) 全体で話し合う。 (3) 全体での話し合いを基に、グループで再検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「いつかのたぬきが、じょうずな手つきで、糸をつむいでいるのでした。」と書いてある。おかみさんは、たぬきが糸車を上手に回せるなんて思っていないはずだから、ここでも驚いたんじゃないかな。 ○ 糸車を回す音にも驚いたと思うよ。だって、おかみさんが回す時と同じで「キーカラカラ キークルクル」という音だったもの。 ○ 確かに上手なことに驚いたと思うけど、それだけかな。初めの方で「ふしぎな」と思っていたことが分かって、そのことをきこりに話すんじゃない。 ○ 「ふしぎ」が分かるって、何がわかるの。 ○ おかみさんは、たぬきが、上手に糸を紡いだり束ねたりしているところを見たでしょ。きっとたぬきが冬の間、ずっと糸車を回して、山のような糸の束を作ってくれたことに気づいたはずだよ。 ○ だとすると、「まきかけた糸までかかっています。」のわけもわかるよね。 ○ 「いつかのたぬき」と書いてあるから、もしかしたら、おかみさんはたぬきのことを忘れかけていたかもしれない。でも、いろんなことがつながって、毎晩おかみさんのまねをしに来ていたことも思い出したんじゃないかな。 |
| 5 | 4 本時の学習を振り返り、国語日記を書く。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ おかみさんが最後にどう思ったかは書いてないけど、「白い糸のたばが、山のように」や「じょうずな手つきで」などをつなげて考えると想像できたよ。これが場面の様子や人物の行動をつなげて考えるということなんだね。 |



前時に6場面の「ふしぎ」「びっくり」などの言葉から、おかみさんがどう思ったかを読み取った子どもたち。しかし、糸車を回すたぬきを見たおかみさんの行動や気持ちは描かれておらず、考えがまとまっていません。本時は、描かれていないおかみさんの気持ちを想像することを通して、場面の様子や登場人物の行動を関連付けた読みへと誘っていきます。

文脈的なプロセスをたどるための教師の支援（発問・指示，教材・教具，評価）

- 春の場面でおかみさんがどう思ったかを表す「おどろきました」「ふしぎな」「びっくり」などの叙述を取り上げるとともに、たぬきが糸車を回しているところを見た後は、おかみさんがどう思ったかが描かれていないことを確かめる。その上で、次のような本時の課題を設定し、場面の様子や登場人物の行動とつなげて想像する見通しをもたせる。

おかみさんは、糸車をまわしているたぬきを見て、どう思ったのだろう。

- 課題設定後、教師が範読（P.81,L.4～P.84,L.3）しながら、おかみさんが見たたぬきの行動や場面の様子を表す叙述を見つけさせる。
- グループに1枚ずつ全文プリントを用意し、一人一人が見つけたところに線を引かせながら、おかみさんが見たたぬきの行動や場面の様子を表す叙述を共有させていく。
- 話し合いが滞っているグループには、小屋の間取り図上で登場人物カードを動かしたり、登場人物になりきって動作化したりする方法を示し、場面の様子を具体的に想像しながら話し合えるようにする。

【教材・教具】

- 全文プリント
- 小屋の間取り図
- 登場人物カード

- 全体では「～を見たってことは、きっと～」のように、場面の様子やたぬきの行動と関連付けておかみさんがどう思ったかを想像している考えを取り上げる。特に、次のような叙述に着目しているグループを取り上げ、それを見たおかみさんがどう思っていたかを全体に問い返すことで、「いたの間に、白い糸のたばが、山のようにつんであったのです。」「そのうえ、ほこりだらけのはずの糸車には、まきかけた糸までかかっています。」などの場面の様子と関連付けた考え方を共有していく。

【教材・教具】

- センテンスカード

- キーカラカラ キーカラカラ キークルクル キークルクル
と、糸車のまわる音が、きこえてきました。
- いつかのたぬきが、じょうずな手つきで、糸をつむいでいるのでした。
- いつもおかみさんがしていたとおりに、たばねてわきにつみかさねました。

- 全体で話し合ったことを基に、再度グループでおかみさんがきこりに何と言ったかを話し合わせる。想像したおかみさんの言葉は付箋紙に書かせ、グループで1枚のワークシートにまとめながら、どの叙述とどの叙述を関連付けて想像したかを確認させる。

【教材・教具】

- ワークシート
- 付箋紙

- 国語日記では、本時の課題についてグループや全体で話し合ったことを基に、再度自分の考えを書かせていく。さらに、どの叙述とどの叙述をつなげて考えることで課題を解決できたか、あるいはどこに疑問が残ったかについても振り返らせていく。

【評価】

場面の様子や人物の行動に着目し、おかみさんがどう思ったかを想像することができる。（発言，ワークシート）